

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成27年6月23日 NO.11

道徳授業地区公開講座：ご来校・ご参観ありがとうございました！

6月20日(土)。平成27年度の国立第七小学校道徳授業地区公開講座が多くの保護者・地域の皆様のご参観のもと行われました。ご来校いただき心より感謝申し上げます。2・3時間目には、それぞれのクラスで道徳授業が行われました。先生達は、教材研究・教材作りに励み様々な工夫を行いながら授業を行いました。アンケート等でご意見・ご感想を頂ければ嬉しく思います。

講演会は、まずは松昭一教育長より、道徳授業地区公開講座は、教師が一丸となって人権尊重、豊かな心の育成をする教育、思いやり、勇気、公正公平など、価値項目に基づいて年間で計画をたてて指導しているものであり、さらに、道徳教育は家庭や地域でも行っていくもので、そのために、年1回公開講座を行っているという本会の主旨の説明をしていただきました。

その後、講師の国立市教育員会指導主事の荒西岳広先生のお話を聞くことができました。「考えてみましょう。ほめること・しかること」という演題で、荒西先生ご自身の子育てのお話や小グループでの話し合いなどを通して、70名以上の参加者が皆満足してくれ、たいへん素晴らしいご講演でありました。詳細は以下に記します。

まず、最近どのように子供を叱ったかということから入り(母：授業参観で話を聞いていない。母：ものをこわしてたのにかくしていたこと)、言ってはいけない禁句(早くしなさい・お店で騒いでいる時、「お店の人に叱られるよ。」・いたずらをした時「悪い子だね。」・ジュースをこぼした「何やってるの。」・人のものをとった「おかあさん恥ずかしい。」・けがをさせた。「そんなことする子はうちの子ではない」などの言い方は大人の都合でものを言っているからダメであるということとお話がありました。その後、本気で叱らないといけない時とはどんな時か、①命の危険にかかわる時→あなたは大切な存在なんだから、②人を傷つけた時→十分に受けとめる、いけないことを理解させる、大切なメッセージをもちこむことが大事であるとお話されました。

その後、近くの人と懇談タイム「どんなほめ方がよいでしょう。」があり、しかられた後にできたことに対して「やればできるじゃん。」ではなく、「やっぱできたじゃん。」の方がよいとの声もありました。なお、「ほめて叱っても響かない子」場合には、子供が思春期であり、自分のことをわかっていないのにと意識があることもあり、その部分を十二分に理解するようにしましょうと話されました。

最後に、まとめとして、子供のことをよく知ることが大切であり、特にお父さんが無関心なことが多いことをアンケート数値からのお話がありました。ほめる行為や叱る行為の前提は、信頼関係が最も大切であり、少しでも子供との時間を作り話していくことは大事であり、大人の都合ではなく、子供の立場にたって、本人の未来のために、ほめてしかっていきましょうとご提言があり、ご講演を閉じられました。

多くの参加者が聞いて勉強になり、聞いて得をした講演会であったと深く感じております。来年度も荒西先生を講師として招聘し来て頂き、ご講演を賜りたいとの感謝の大拍手の中、道徳授業地区公開講座が終了しました。

何のためにしかるのか

自律的で幸せな人生
を歩むことができる
ように



ほめること

自律的で幸せな人生
を歩むことができる
ように

どのようなほめ方が
よいでしょうか

その場の大人の都合ではなく、子どもの視点に立って本人の未来の幸せのために、ほめてください。しかってください。



信頼関係

子どものことをよく知ること